



アーシャ事務局よりお知らせ

**スタディーツアー：インドの人々・自然・農村に触れる11日間！～インドの多様性を感じてみよう～**

(社団法人) 全国愛農会と(株)マイチケットとの協働で、インドのプロジェク地を訪問するスタディーツアーを開催致します。

【日時】2015年2月19日(木)～3月1日(日)  
 【訪問先】北インドウッタラプラデシュ州アラハバード県におけるプロジェクト実施地域、デリー、パラナシ  
 【参加費】1人167,000円(空港使用料やビザ申請料などを含め、別途4～5万円ほど必要になります)各種割引もあります。  
 【申込み締切】2014年12月26日(金)



【お申込み・お問合せ】株式会社 マイチケット  
 〒660-0084 兵庫県尼崎市武庫川町4-27-1  
 TEL: 06-4869-3444 FAX: 06-4869-5777

**インドの子ども達の絵画展 ～子ども達の未来のために、今できること～**

子ども達の描く世界から、北インドの農村に暮らす子ども達の想いや日々の生活を感じてみませんか? また、会場では現地スタッフ・専門家によるセミナーや、インド伝統医療・アーユルヴェーダのワークショップを開催いたします。

【会場】：那須野が原ハーモニーホール 第2ギャラリー (栃木県大田原市本町1丁目2703-6)  
 【日時】：2014年12月20日(土)～23日(火)

\*\*\*ボランティア大募集\*\*\* 絵画展期間中、会場の設営や運営をお手伝い頂ける方を募集しています! ご協力いただける方は、ぜひ事務局までご連絡ください!!



私たちの絵を見に来てください!

**持続可能な農業・農村開発コース 学生募集!**

アラハバードの農村開発の現場で、農業、食、異文化、開発問題などについて学んでみませんか!?



今年度の学生の石橋さん(左端)。

集中語学研修：2015年4月中旬～2か月間(英語力が充分な方は免除)  
 本コース：2015年7月1日～2016年3月  
 ● 2か月間の集中語学研修費用(英語)が10万円、2015年度の学費が50万円(寮費、一日3食の食費、授業料、入学金、空港からの送迎、インド国内研修旅行費用を含む)です。  
 ● 日本とインド間の渡航費、学生ビザ取得費、海外旅行保険は自己負担。  
 お申込み・問い合わせは recruitment@ashaasia.org まで。

**インターン・ボランティア随時募集中!**

継続教育学部では、スタッフの仕事のサポートや専門技術を共有・応用していただけるインターン、またはボランティアを募集しています。

- **インターン**...期間は6か月以上1年未満、寮費/食費は継続教育学部負担。スタッフの下、責任領域をある程度持つ。
- **ボランティア**...期間は4週間以上～6か月未満、食費/寮費1日400ルピー、スタッフの補助に回る。
- 日本とインド間の渡航費、学生ビザ取得費、海外旅行保険は自己負担。



インターンの涌泉さん。組合で日本語での接客を担当する。

お申込み・問い合わせは recruitment@ashaasia.org まで。

●会費・寄付納入者名簿● 2014.8.19～11.10 ○は新入会員。順不同、敬称略  
 正会員・賛助会員の皆様、ご寄付をお送りいただきました皆様のご支援により、アーシャの活動が支えられています。ぜひ継続的なご支援をよろしくお願いいたします。誤字・記載漏れがありましたらご面倒でも事務局までお知らせ下さい。

個人正会員

個人賛助会員

ご寄付

10周年記念募金

■会費 個人正会員 5,000円 団体正会員 20,000円 終身個人正会員 50,000円 (正会員は総会議決権があります)  
 個人賛助会員 3,000円 団体賛助会員 10,000円 終身個人賛助会員 30,000円

■郵便振替 加入者名：アーシャ=アジアの農民と歩む会 口座番号：00160-0-315147

**特定非営利活動法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会**

<事務局・交流センター> 〒329-2705 栃木県那須塩原市南郷屋4-28-4 B202 TEL/FAX: 0287-47-7840

事務局 丹羽 寿美 君嶋 みのり E-MAIL: info.jp@ashaasia.org

アーシャ=アジアの農民と歩む会ホームページ: http://www.ashaasia.org Facebook、twitterも随時更新中!



継続教育学部スタッフ6名がグローバル訪問。食肉加工、販売方法を学ぶ。石原氏、前列左3番目

アーシャ理事・グローバル代表・石原 潔

アラハバードの農民組合で食肉加工のお手伝いをさせてもらって7年が過ぎてしまいました。5年間は現地に通わせて頂いたのですが、この2年間はブランクがあります。今年6月の日本研修旅行の際にはニッティン、サントシュが日本人スタッフと共にグローバルを訪問してください、短時間でも会えたことが距離を大幅に縮めてくれました。それでも、現地との差はあるに違いないと思われれます。そんな時でしたが現地から届くアーシャの会報や年次報告書が、現地の活動を豊かにイメージを浮かび上がらせてくれました。12月20日から23日に栃木県那須野が原ハーモニーホールで開かれる「インドの子ども達の絵日記展」は、きっと現地と日本との新しい架け橋となることでしょう。展示会の成果を期待します。

アラハバードは深い印象を与えてくれます。僅かな体験でも、自分を変えられ、忘れがたい経験となっているのです。アーシャで三浦さんや牧野さんが40年以上継続して現地の人々に関わり続けている重さと、毎年直面する新たな課題にひるまず立ち向かおうとする姿に教えられるからでしょうか。

滋賀県の近江八幡市ではメリル・ヴォーリス没後50周年の記念事業が今年10月から1ヶ月に亘り行われました。私は姜尚中さんの講演を聴きに出かけました。ヴォーリスは1905年アメリカから来訪。1964年まで働

き建築、教育、医療の多方面に足跡をのこしましたが、「失敗者の自伝」を遺したのも感銘深いところです。彼の設計した建築は日本中に残っています。彼の仕事かどのようなものだったのか、近江兄弟社の事業運営について最近出された「神の国の種をまこう」(新教出版社)に詳しく、学ぶことが出来ます。そのなかで「実業生における兄弟主義」1934年湖畔の声9月号が注目されます。「日常生活における兄弟主義の核心は、使徒時代にイエスの弟子達が呼びかけた『来なさい。そうすれば分かる』に帰ることである。」と言っています。実際の仕事の様子を見せ、共に生活するなかで、伝えるべきものが伝わるということです。敵をも兄弟として共に生きて行くことが出来ると愛の信仰によって支えられて戦争の時代を生き抜いたヴォーリスさんの生き方はとてもまねできませんが、引きつけられます。その精神は人から人へと伝わっています。

名古屋にもAHI (Asian Health Institute) という国際NGOがあります。町医者がアジアの現場で働く中堅医療技術者や農村開発も出来る保健ワーカーの育成研修施設をつくるため1980年に設立されました。はじめ財団法人の認可を取りに厚生省にいったら、「そんなことが出来るんですか」と東大出の役人に馬鹿にされたといひます。町医者のK先生は夢を追い、奥様が下支えしました。とんでもないことと言われてはじめてたことが、多くの人の支えで、いまではしっかりと根を張って30年以上の結果を出し続けています。その団体も「人から人へ」という言葉を掲げています。

アーシャも長い歴史を積み重ねています。大きな木になって根を張りつつあります。アーシャはひとつづりを掲げています。それはどんな人を期待しているのでしょうか。人から人へ、実感と情景を伝えながらアラハバードの人々とも、日本国内の心ある人々とも、繋がってゆけるようにと願っています。大胆に夢を描き、未だ見ぬものを確信して目標に向かって進んで行けるよう願っています。